

道場に住み込んで思ったこと

明治大学体育会合気道部

一年部員 大脇 英夏



二泊三日の住み込み生活、短いようで、とても長かったです。

たったの三日でも、一日の中で起こることが普段の生活の三倍はあると言っても過言ではないと思います。

住み込みをしなくては出会えなかった人々は、たとえもう会えないとしても、私の心の中でこれからも大きく影響し続けることでしょう。

住み込みかが始まる前から明治の学生以外にも、一人外国の方がいらっしゃるという事を聞いて、はじめはどう接すればいいのか、日本語は通じるのだろうかなど、とても不安に思いましたが、とても優しく明るい方で、楽しいときを過ごせました。

生まれて初めて出前のラーメンを食べたり、一緒に銭湯に行ったり、毎日新鮮に思える事ばかりです。

たまに外国の方と英語で話したりしましたが、昔アメリカに住んでいて覚えているはずの英語がまったく出て来ず、ショックを受けた一方で、少しだけ懐かしさを感じました。

稽古はやはり楽ではありませんでした。

住み込みの一週間位前に、インフルエンザにかかってしまい、何日も寝込んだ後の稽古だったという事もあり、一日目ですでに息はすぐ切れ、筋肉痛も酷かったです。

しかし、様々な人が集まる稽古では、違う人に付く度に学べることは数え切れません。

それを全て覚えて技の中にとり入れられたら良いのですが、そう上手くは行かないので、これからも数をこなし、自分のものにしていく様、努力していきたいです。

